

いきいきボランティア No.10

*いきいきボランティアのコーナーは今回を持って終了します。次号の新コーナーをお楽しみに!

市内のボランティア団体として登録し、助け合いの精神をもってさまざまな活動をしている皆さんを紹介するコーナーです。
問 ボランティア市民活動センター ☎0475(89)2121



「こだまおはなし会」

会設立 昭和56年
代 表 平山 光子さん(成東)
会員数 12人

〈主な活動〉

目の不自由な人のため、声の広報を作成・幼児を対象にした読み聞かせなど

小学校PTAの読書会役員が、卒業してからも何か役に立つことがしたいと、お母さんたちのおはなし会を立ち上げました。いまから28年前のことです。

設立当時からの会員、平山さんは「集まった時は個人的な会話をせずに、みんなが共通の話題で楽しく活動しています。利用者の声を活かして始まった声の広報も要望に応えながら徐々に改善してきたからこそ、28年もの長い年数を重ねて来られたと思います」

会では、絵本の魅力を子どもたちにも広めようと読み聞かせやイベントへも参加。昔話を登場人物になりきって一緒に楽しんでいます。



毎月の録音や読み聞かせも、個人の都合で参加は自由「居心地のよい所」とは皆さんの一致した気持ちのようです。

*社会福祉協議会を通じて、カセットテープに吹き込みをした声の広報を、毎月お届けしています。ご希望の人はご連絡ください。

編集後記

▼何度かの挫折を繰り返しながらも、人が人として生きてこられたのは、多くの人との出会いによるもの。出会いの「因」に感謝の心を添える「恩」となる。▽広報の仕事は、行政と市民との橋渡しを使命とし、心に感銘を与えられることができる可能性を持った仕事だと思っております。地域に浸透し、「あつて当たり前」ではなく、なくてはならない広報紙にするという目的を、きちんと見据えた活動であつてほしい…新しい年度の始まりに、成長した後輩に送る言葉としてペンをおきます。(K)

▼大先輩の(K)さんは、この広報紙が発行する日には、退職してここにはいません。初めて持った一眼レフカメラ、真っ赤に直された文章。担当になってから2年が経ちますが、たくさんの方を教えて頂きました。今までどこかに甘えがあったわたしは、これからのことを考えると不安でいっぱいです。▽先日テレビで『前後際断』という道元禅師の言葉を知りました。「時間的な前後、未来過去、ここではない場所に思いを向けるのではなく『いま』『ここ』に生きなさい」ということだそうです。目の前のことに集中しなければいけない、今のわたしにぴったりの言葉だと思いました。(I)